

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田勝彦

経理責任者氏名 増田誠宏

期 間	令和 7 年 1 月 25・26日(土・日)
用 務 先	ユーハイム似島歓迎交流センター
用 務	2025ひろしま環境ミーティング@似島 分科会でのゲストとして三次市の取り組み等の発表
概要及び所見 (目的、参考 にすべき事項、 言、活用 策等)	【目的・概要】 昨年まで「自然体験活動フォーラム in 広島」として、開催されていましたが、今回「ひろしま環境ミーティング」として環境パートナーひろしまと実行委員会が主催で、今年はユーハイム似島歓迎交流センターで開催されました。 今回のテーマは【2030 年に向けて話そう】 一年に一度、「環境」に関わる多様な分野の方々が集い その年ならではの新たな出会いやつながりを生み出すミーティングです。 私は二日目の「環境問題と政治の接点 ～地方自治体と市民の連携による環境政策の推進～」の分科会で安芸高田市議会の南澤克彦議員と共に、ゲストで参加させていただき、議会での環境問題へのアプローチや、環境政策課に資料提供をしていただき、三次市での現在の環境にまつわる取り組みをお伝えしました。以下、分科会における概要です。 1. 分科会の目的と背景 分科会では、「環境問題と政治の関わり」を主題に、地方自治体や市民がどのように連携し、環境政策を推進していけるかを議論しました。環境問題は地域社会の未来に直結する重大な課題であり、政治の意思決定がその解決の鍵を握っています。しかし現実には、環境問題が政治課題として十分に引き上げられていない状況があります。そうした課題の背景を踏まえ、実効性ある取り組みの可能性を探りました。

分科会は以下の流れで進行了しました。

1. ゲストによる事例紹介・情報提供
2. 各テーマに基づくグループディスカッション
3. 全体での意見共有と総括

環境問題が政治で取り上げにくい理由として、日本における環境政策の推進に構造的・政治的なハードルが存在します。

焼却炉依存型の廃棄物処理文化や、リサイクルシステムの整備の遅れなどの構造的な課題や、環境問題は有権者の投票行動に直結しにくく、また短期的な成果が見えにくいため、政治的優先度が相対的に低くなる傾向があるという政治的な課題が挙げられます。

そのような現状を踏まえて、分科会では、以下のとおり、実際の地域における取り組み事例と、それに伴う課題について共有が行われました。

・社会変革と政治参加の方法(南澤議員):社会を変えるためには、請願・陳情・要望などを通じた市民の政治参加が不可欠であるとし、それぞれの制度の違いや活用方法が解説されました。

・三次市の事例(徳岡):「みよし未来環境会議」と題し、中高生の参画による持続可能な地域づくりの事例を紹介。市長によるカーボンニュートラル宣言を契機とした官民連携の進展が注目されていること。

環境政策の実効性を担保するには、市民および NPO 等の主体的な関与が不可欠。

特に「政策提言の手段」として条例や地域計画の活用、「政治との接点づくり」として、議員との定期的な対話やパブコメの活用等、また「効果的なコミュニケーション」として、専門用語に偏らず、共感を呼ぶ語り口でのアプローチ。。。などの考えられます。

本分科会では、地域に根差した環境政策の推進に向けた多くの視点と実践的なヒントが共有されました。地方自治体と市民、さらには若者や NPO が協力し合うことで、持続可能な未来の実現に向けた新たなアクションが期待されます。今後は本分科会で得られた知見を基に、各地域での具体的な活動につなげていくことが重要だと考えます。